



今官一『風流博物誌』荒地出版社 1959年

令和7年

4月16日 ~ 7月7日

弘前市立郷土文学館

【開館時間】9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

【観覧料】一般 100円、小・中学生 50円

(弘前市内の65歳以上、市内の小・中学生、市内の留学生、
市内外の障がいのある方、ひろさき多子家族応援パスポート持参の方は無料)

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町2-1 (通手門広場内)

TEL 0172-37-5505 FAX 0172-36-8360

E-mail kyoudo@city.hirosaki.lg.jp

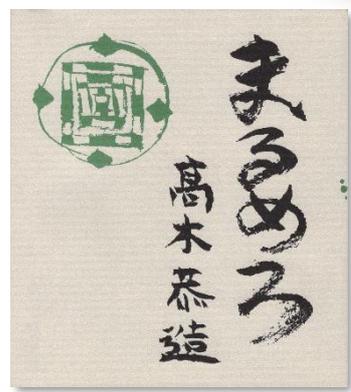
棟方志功と 津軽文士

没後50年

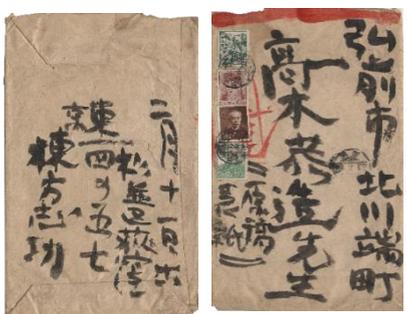
スポット企画展

没後50年 棟方志功と 津軽文士

二〇二五年（令和7年）に没後五十年を迎える世界的版画家・棟方志功（明治36年〜昭和50年・青森市）は、文人たちと幅広く交流し文学関係の書物の装丁を数多く手がけました。本展は、「没後50年 棟方志功と津軽文士」をテーマに開催します。志功が青森県の津軽の文人のために装丁した図書、雑誌や、原稿・書簡などの直筆資料などを展示し、その交流について紹介するものです。



高木恭造
『まるめろ』（復刻版）
風の木社
昭和28年5月25日
装丁：棟方志功
昭和6年に刊行された高木恭造の津軽方言詩集『まるめろ』は、方言でしか表現し得ない独特の世界を描き出し、人々に大きな衝撃を与えた。



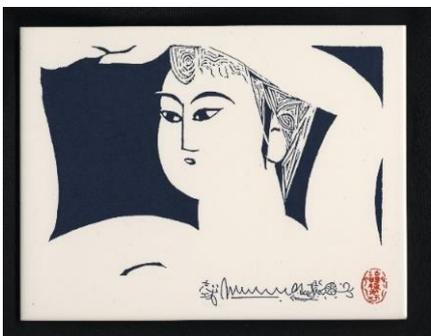
復刻版『まるめろ』の装丁案

（高木恭造宛書簡 昭和28年2月11日消印）

散逸し「幻の詩集」と呼ばれた『まるめろ』を高木の50歳を記念して復刻再刊するにあたり、志功が装丁を引き受けた。志功の書簡や詩集の校正刷りは、刊行までの様子を伝える興味深い資料となっている。



長部日出雄
『鬼が来た 棟方志功伝』（上・下）
文藝春秋
昭和54年11月20日



棟方志功作品陶板画
（長部日出雄旧蔵）

長部日出雄の書齋の本棚に飾られていたもの。長部は昭和55年、志功の生涯を描いた『鬼が来た 棟方志功伝』で第30回芸術選奨文部大臣賞を受賞。